

申請者	学科名	看護学科	職名	教授	氏名	住吉 和子 印
調査研究課題	大学に糖尿病相談室を設置した効果					
交付決定額	1,000千円					
調査研究組織	氏名	所属・職		専門分野	役割分担	
	代表	住吉和子		看護学科・教授	慢性疾患看護	
	分担者	佐田 佳子	認定看護・特任准教授		糖尿病看護	療養相談
		杉島 訓子	認定看護・特任助教		糖尿病看護	療養相談
		高橋 吉孝	栄養学科・教授		病態栄養学	医学的なアドバイス
		福島 光夫	栄養学科・教授		糖尿病学	医学的なアドバイス
		川上 貴代	栄養学科・教授		栄養教育	栄養についての勉強会
		富岡 加代子	栄養学科・准教授		臨床栄養	栄養相談
		田淵 真愉美	栄養学科・講師		臨床栄養	栄養相談
		山口 三重子	看護学科・教授		基礎看護学	広報、療養相談
沖本 克子		看護学科・教授		小児看護学	小児発症の方の相談	
荻 あや子	看護学科・准教授		基礎看護学	療養相談のアドバイス		
岡崎 愉加	看護学科・准教授		助産学	妊娠糖尿病の相談		
川村 友紀	看護学科・助手		慢性看護学	療養相談		
中西 代志子	前関西福祉大学・准教授		基礎看護学	療養相談		
調査研究実績の概要 （地域貢献への反映を踏まえて記述のこと）	<p>1. 「糖尿病相談室」開設の目的 糖尿病と診断された方が上手に糖尿病と付き合えるよう支援することを目的に、本大学に糖尿病相談室を開設した。相談には従来の方法ではなく解決志向アプローチを用いた面接を行い、自分で自分の健康を考え、望ましい行動が選択できるよう支援することを目的とする。</p> <p>2. 「糖尿病相談室」開設までの経緯 1) 総社市役所健康づくり課への協力をお願い 2) 看護学科、栄養学科の教員へ協力をお願い ・実行委員会の設置 ・専門性を活かしたフォローアップ体制の整備 (妊産婦、小児発症、コミュニケーションの困難な方など) 3) 吉備医師会の先生方へ協力をお願い ・総社市健康づくり課の協力を得て、吉備医師会で内科を標榜している医師に「糖尿病相談室」の開催趣旨を伝え、患者の紹介を依頼 4) 面接のための「解決志向」のための研修に参加 ・8月の「糖尿病相談室」開設に向けて、最初に、面接を行う看護師自身が解決志向アプローチを理解し、解決志向アプローチを用いた面接が実践できるよう研修会に参加するとともに、解決志向アプローチの専門家に依頼して勉強会を開催し、解決志向について理解を深めるよう準備した。面接記録の分析方法や評価方法について共通認識をもつよう勉強会を2回開催したうえで「糖尿病相談室」を開設した。 5) 「糖尿病相談室」のリーフレットの作成と予約方法の整備 ・健康づくり課で健康診断結果に加えて配布していただく ・吉備医師会の内科を標榜されている医院に置かせていただく ・市内の薬局、スーパーにおかせていただく</p> <p>3. 「糖尿病相談室」の実際 1) 糖尿病相談室の利用者 (1) 利用者17名(男性7名、女性10名)、延べ人数 24名 (2) 医師から紹介:5名、市役所保健師から紹介:5名、その他(チラシを見て)</p>					

2) 相談方法

- (1) 利用者の目的を確認し、目的を達成できるように時間を配分した。
- (2) 糖尿病を管理する上で必要な知識を提供した。
- (3) 健康状態を伝えるために抹消の血流量を確認した。

2) 栄養相談の実施

療養指導の患者で栄養指導を希望する者を対象に、栄養学科の教員が個別に栄養指導を実施した。希望者には食事記録を記載してもらい、栄養計算をしてエネルギー、バランス、塩分摂取量を伝えた。

3) 料理教室の実施

平成26年2月14日に栄養学科の主催で料理教室を企画・実施した。当日は雪のため一旦は料理教室を中止としたが、3名の参加者が大学まで来られたため、スタッフを含めた20名で料理教室を開催した。

4. 今年度の課題

- ①「相談室」の場所がわかりにくいこと、大学までの交通が不便で利用できないという意見が聞かれたため、開催場所を考える必要がある。
- ②総社市民の健康をサポートするためには、総社市役所健康づくり課と役割分担を明確にしていく必要がある。
- ③「相談日」を予定していた開催回数が少なく、臨時で開催したので、来年度に向けて開催の回数、曜日を検討する必要がある。
- ④「糖尿病相談室」がどの程度役立っているのか、効果を評価する必要がある。
- ⑤HbA1c測定、微量アルブミン測定、末梢血流量の測定器を有効に使い方法を考える必要がある。

